

留学報告書 ～井の中の蛙、いざ大海へ！～

ノースセントラル大学
外国語学部生（長期）



「シカゴの近く」と聞けばわかりやすいかもしれませんが。僕は2019年8月から翌年3月（コロナウイルスの影響で早期帰国）の間、アメリカ合衆国イリノイ州の North Central College に留学していました。アメリカというのは皆さんもご存じの通り、日本以上に様々な人が住んでいる国です。この報告書では、留学を通して経験した出来事（自分が感じた他学生との差から価値観の違いまで）について述べていきます。

恥ずかしながら僕は渡米するまで自分の英語力には自信がありました。一部の学生は不安や緊張を感じていたようですが、自分の場合は楽しみが9割とあったところでしょうか。個人的には語学力を伸ばすことよりも、更に英語で教養を深め、また出会う仲間と様々な体験が出来ればと思っていました。しかし現地についてまず衝撃を受けたのは、アメリカ（恐らくカナダ等他の英語圏も）で話される英語というのは日本で聞く英語とは全く別物だということです。人にもよりますが、多くの学生は耳が慣れるのに2, 3ヶ月から半年ほどはかかるそうです。（僕はそれ以上かかってしまいました。）

ところが驚いたことに、自分の周りにはいる学生達一特にヨーロッパからの学生が多かった印象ですが一は難なくアメリカ人や他のインターナショナル学生と会話が出来ていました。多くの方が言うように、欧米の学生に関していえば、同じヨーロッパ言語なので英語と類似している文法や単語もあり、我々アジア人よりも英語の習得は容易なのかもしれません。彼らは彼ら、自分は自分、と割り切って考えられれば良かったのですが、自分と同じような年齢の子達が自分を遥かに上回る実力をもっていたことに愕然としました。

また彼らは英語が出来るとは既に当たり前、飽くまで英語は学びのツールとして留学しに来ている、という印象を強く受けました。友達になったインターナショナル学生に専攻を尋ねると、「コンピューターサイエンス」や「政治科学」など、色々な答えが返ってきました。正直なところ逆に僕自身が専攻について訊かれた際、漠然と「英語」としか言えなかったのが恥ずかしく感じました。

授業に関しても、僕は教授や学生が話している内容についていくのに必死でしたが、学生によっては教授と議論を交わすなど、現地のアメリカ人学生さえ凌駕してしまうような人も多く見られました。先程も述べたように、僕は自分の英語力には自信があったのです

が、渡米後には気分がかなり落ち込んでいました。「あの子達は学業も余暇も充実しているのに自分は日常会話すらままならない。」特に留学初めの頃は毎日、このようなことを思っていました。ただ今考えてみれば、これはそれまでの自惚れの反動だったのかもしれませんが。僕は自宅でも苦手なリスニング力を補強するためにシャドーイングはしていました。こうした自分の努力は素直によくやると褒めたいのですが、その反面、心のどこかで「俺は何でも出来る」「これだけやっているのだから多少の力不足は現地で何とか出来るだろう」などと思い、高をくくっていたのも事実です。現実はその甘くなく、常に劣等感や自己嫌悪を感じていました。もちろんあのような感覚はもう味わいたくありませんが、肯定的にとらえるならば、おごり高ぶる自分を謙虚にしてくれた出来事だったように思われます。多くの仲間との出会いは、良い意味で自分をぶちのめしてくれました。

さて、次はキャンパスで行われた行事について説明させていただきます。僕が経験した最初の大きな規模のイベントは、アメリカ到着後、周りの環境にも慣れてきた9月下旬に行われたホームカミングパーティーでしょうか。内容としてはスピーチ、食事会、そしてダンスパーティーといったものでした。印象的だったのはドレスコードがあったことです。日本のパーティーもそうなのかもしれませんが、個人的にスーツを着用しての食事というのは記憶にある限り、恐らく初めてだったと思います。少し緊張しましたが、また一歩大人になれたような気がしました。ちなみにその日の午後にはインターナショナルパレード（冒頭の写真）があり、各々自分の国旗をもちキャンパス内を歩きました。



また僕はJapan Club、ASK (Asian Student Konnection)、そしてInternational Clubにも所属していたため、それらの行事を通じて多くの人々に出会うことが出来ました。

Japan Club ではその名の通り、例えば任天堂のゲームやアニメなど、日本にちなんだ物を体験するのが基本でした。(1,2週間に1回程度)

ASKは月1回の頻度でしたが、その分シカゴのチャイナタウントリップや寿司屋でのフェアウェルパーティー、キャンパス内でも韓国料理やテト（ベトナムの旧正月）体験など幅広い活動を行っていました。個人的に嬉しかったのは12月の寿司屋でのフェアウェルパーティーです。その日は偶然僕の誕生日だったこともあり、参加した学生がそれぞれメッセージカードや寿司屋の割引券、それにケーキを渡してくれました。（寮でも色々な友達からロシアのバッジ、ファブリーズ、スライム、チョコレートなどをいただきました。）正直なところ留学当初は環境に馴染めるか、友達ができるかなど人間関係に不安がありましたが、この頃には誕生日を祝ってくれる仲間が多くいたことでそのような考えはほぼ払拭されました。



活動内容はやや ASK と重複しますが、International Club もフィールドトリップやアクティビティが主でした。1月のアイススケートが人生初だったので特に印象に残りました。個人的には展示物を見るのも好きなので、2月の博物館見学も良い経験でした。

こうした、特定の国や地域に関わる団体には、それらに興味のあるアメリカ人やインターナショナル学生が集まります。ASKについていうなら、彼らはアジアに理解や関心があるので、他の場所に出会う人々以上に打ち解け合うのが早いかもしれません。またインターナショナルクラブではアメリカ人以外の学生が多く見られました。こちらでは「アジア好き」「日本好き」というよりも「留学生」や「外国人学生」といった共通意識で他学生と繋がったような印象があります。勿論楽しいと思えることが大前提ですが、留学先で様々な人に出会いたい場合は、こうした自分達と関連のある団体や行事に参加するのがおすすめです。また詳しい内容はわかりませんが、こうした団体で行くイベントの方が、実際に個人でどこかへ訪れるよりもかなり安く済ませることが出来ます。（例えばフェアウェルパーティーは5ドルで寿司が食べ放題、ミュージアムトリップは無料でした。）

海外生活における日本人と外国人との価値観の違いは皆さんもよく耳にされることと思います。飽くまで僕が見聞きした範囲内ですが、個人的な経験をいくつかお伝えしたいと思います。

これは有名な話ですが、海外の人は日本人と比べて感情を露わにすることが多い傾向にあります。日本人はこれについて「怖い」や「浅薄だ」と思う人が多くおり、僕自身も正直なところ何度か相手に露骨に嫌な顔をされて気分を害されたこともありました。

ところがある日、ブルンジの友達と世間話をしていた際にこの話題になりました。僕が日本人は怒っていてもそれを表情や言葉には出さない、と言ったところ、彼はなんと「それは偽善的だ」と返してきたのです。怒っているのならそれを率直に伝えるべきだというのが彼の（それともブルンジの）考えでした。僕は衝撃を受けました。そのような考えがあったのかと。これまでの自分の中には全くない発想で、寧ろこちらの方が世界標準なのかもしれません。

僕は日本人ももっと海外の価値観に合わせるべきだ、また逆に外国人は子供っぽいなどと偉そうに批判はしません。ただ些細なことではありましたが、ある種の閃きというか、

盲点を突かれた感じがして非常におもしろい発見だと思いました。日本では美德とされていることが、かえって他の地域では好ましくないこととみなされてしまうのです。

また、価値観とは違うかもしれませんが、非アジア人（特に東アジア）からするといかに日本のプレゼンスが小さいかということも実感しました。とあるロシアの友達も「ごめんね、日本のことについてはほとんど知らないの」と言っていました。（なぜか日本は憲法の制約で軍隊の所持が出来ないことは知っていましたが。）ある授業では教授が僕にテコンドーが云々とおっしゃってくることもありました。街中で見る寿司屋や日本製品も、どこことなく中国風のロゴが書いてあったりと、日中韓は他の地域の人からするとかなり紛らわしいことが窺えます。特に日本のみとなると更によくわからない（というかそもそも知らない）という場合が多々ありました。

最近国内テレビで「世界に誇れる日本」といった趣旨の番組が散見されます。僕もあのような放送を見て以前は日本は世界的に知名度が高んだ、などと思っていましたが実際にはそのようなことはありません。

しかしアジア人は日本に興味や関心を抱いてくれている印象を強く受けました。中国人の友達は日本のアニメ・漫画が好きでした。ベトナムでは日本食、韓国料理が現在人気だそうです。僕以上にジャニーズに詳しいネパール人の友達もいました。（そのネパール人の友達に誘われて、僕は初めて「聲の形」も視聴しました。）このように、世界的には名前しか知られていないような日本ですが、アジア規模では有名なようです。こうした経験で個人的に思ったことですが、彼らとは対照的に日本にはどこか我々自身を除くアジア諸国を疎んじる傾向があるように思います。それこそ先程のテレビ番組でも、取材されるいわゆる「親日外国人」の多くはアジア以外の地域から来た人々のように感じます。ひょっとしたら他のアジア諸国もそうなのかもしれませんが、日本社会の中には「欧米人＝好ましい外国人」といった図式があるのではないのでしょうか。決して、だから「アジア人を優遇しろ」、「他の人種を差別しろ」、というつもりはありません。しかし、せっかく沢山のアジアの人々が日本に憧れをもってくれているのだから、我々もそれに応えるべきでは、同じアジア人としてもっと親しみ・関心をもつべきでは、と強く思うようになりました。

ところで先程、外国人は感情を隠さない、といったことを書きましたが、こうした考えも「一般論」として留めておく必要があるように思います。僕は留学中 様々な人に出会いましたが、どこの国の人間であろうと結局はその人自身の人柄によって合う合わないがありました。例えばアメリカ人でいえば、日本人からすると彼らは社交的なイメージがあります。しかし実際には内気な子や無愛想な人もいました。寧ろ、これは個人的な意見ですが、僕が滞在していた地域では、多くのアメリカ人は顔見知り程度の人間には道ですれ違ってても挨拶すらしない傾向があるように思います。しかしその中でも「友達」になった途端 向こうから声をかけてくれる子（単に相手からすれば僕はそれまで「他人」であっただけで、悪気はなかったと思います）や、授業が一緒というだけで、席もさほど近くないにも関わらず、親しげに接してくれた子もいました。また、日本のニュースではしばしば中国の過激な反日活動を目にします。しかし仲の良かった中国人は政治的には日本のことが嫌いらしいですが、それでも日本の文化は好きだと言っていました。他にも同じ国の人間であっても、フレンドリーな人もいれば、素っ気ない人もいました。

マクロな視点で見れば国民性やステレオタイプもあるのでしょう。しかしそれを個々人に当てはめるのはあまりにも乱暴だと思ふようになりました。当たり前といえば当たり前なのかもしれません。我々日本人同士でも「あいつはああいう奴だ」という言い方をすることがありますが、もし日本人が均一に同じ性格ならばこのようなことは言わないでしょう。「〇〇人はこう」という考えは、個人として誰かと合う場合には全くあてにはなりません。寧ろそのせいで相手に過度な期待や恐れを抱いてしまう、危険な物差しになる可能性すらあります。

このように、僕は North Central College にて色々な国から来た様々な人に出会いまし

た。その間無意識のうちに価値観が変わったような気がします。寛容になった、といったところでしょうか。ブルンジの友達との出来事のように、日本人とは反対のことが良しとされていることだってあるのです。しかしそういう考え方に触れた際、だから日本人はだめだ、いや外国人こそおかしい、というのではなく、そういう価値観があるのだと客観的に捉えられる自分が現れたように感じます。また 何人か憧れの人と会うことで、自分もこうありたいと思うようになり、それが現在でも続けている努力（読書、語学力の向上や筋トレ）の原動力となっています。ひょっとしたら追いつき追い越すことは不可能かもしれませんが、それでも自分を変えねばと思わせてくれたことに今でも感謝しています。将来再び会えるかどうかはわかりませんが、一生忘れないでしょう。

少し違った視点から考えると、英語の有用性も強く感じました。僕は日本語と英語、そして基本的なスペイン語しかわかりません。しかし相手が何人であろうと、その人が英語さえ話せるのなら、自分とは意思の疎通が可能であるということです。実際そのおかげで多くのアメリカ人以外のインターナショナル学生とも友達になることが出来ました。ついこの間も日本国内から、Instagram の通話機能でホーチミンの友達と話したばかりです。（つまり日本人とベトナム人が「英語で」コミュニケーションをとったということです。）

客観的に振り返れば、自分の留学は嫌なことが多く、また辛い期間の方が長かったように思います。しかしその反面 得られたものも大きかったといえます。視野が広がり、自分をもっと高めねばと思うようになり、更に英語の実用性にも改めて、身を以って気づくことが出来たからです。その中でも人との出会いが特段大きいように思われます。留学当初、全く英語が聞き取れず 怪訝な顔をされることもありました。そのような状態だった僕と関わりをもとうとしてくれた人達がいました。自分の留学先でできた友達はこうした子ばかりです。語学力がなくても良いなどというつもりはありませんが、自分のリスニング力不足が皮肉にも良き友を得る試金石にもなった気がします。自分を認めてくれ、また高める動機を与えてくれた仲間には本当に感謝しています。このきっかけを無駄にせず、今後も日々精進しなければなりません。再び会えることを願いながら。

終わり

ギャラリー







a.s.k_ncc

